

日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03 - 5842 - 6031 2020年
FAX：03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 1月15日発行

【福島】郡山市の小学校を訪問しちひろカレンダー贈呈

福島県原水協は1月10日、郡山市立赤木小学校、永盛小学校を訪問し、全国から寄せられた被災地贈呈募金でちひろカレンダーを贈呈しました。右の写真は永盛小学校の大知里重正校長先生（左）と郡山原水協事務局次長の木村茂さん（元小学校教員）です。



この日は最初に赤木小学校を訪問。鈴木校長先生が「心が洗われるような絵をありがとうございます」と感謝を述べました。水害の時のお話を聞くと、「子どもは、他の4か所の小学校に間借りをしてスクールバ

スで通うなど不便な学校生活を送りましたが、3学期からやっと元の校舎に戻ることができました。しかし1階部分がすべて水に浸かってしまったため給食室が使用できず、今はお弁当を業者に発注しています。また、学校のパソコンのサーバーが水に浸かり、80年分の子どもの成長の記録データが消えてしまいました」と本当にがっかりしていました。近くの逢瀬川は過去にも何度も氾濫しているようで、再び被害に遭うことのないよう、早く対策を講じてほしいとおっしゃっていました。

その後、永盛小学校へ。ここは、阿武隈川とそれに注ぐ笹原川に挟まれた場所で、1階の2m近くまで水に浸かったとのこと。校長室は、家庭科準備室を使っていて、校長先生はお鍋やたらいの棚の前で仕事をされています。今も1・2年生は、スクールバスで隣の緑が岡小学校に通学。校舎の電気は応急設備で対応していて、私たちが訪問した時は、「電気工事のため、ただ今から停電します」の校内放送が流れました。新学期が始まってもしばらくこんな状況で、給食はやはり業者のお弁当だそうです。大知里校長先生は、「この学区の子どもの家庭の約半分が水害に遭っていて、まだまだ大変な状況です」とおっしゃっていました。私たちは、「いわさきちひろさんの絵を見て少しでも元気になってください」と話しました。ちょうど下校時だったので、玄関でカレンダーを手に帰る子どもが「ありがとうございました」と言ってくれてほっとしました。小泉小学校は訪問の予定が合わなかったため、お手紙を送りました。郡山の子どもにたくさんのカレンダーを送ることができて、募金にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

余談ですが、原発事故で避難をし、新しく家を建てたり、借りたりして新しい生活を始めた世帯の330世帯が、今回の豪雨災害で再び家を失ったそうです。その10月に消費税が10%に上がり、被災者に追い打ちをかける政治に怒りがこみ上げます。桜もカジノもいらぬから、暮らしを守ってほしいです！（福島県原水協事務局長・石堂祐子）